

一戦必勝

八学光星 2年ぶり聖地へ

—下—

「今年のチームは特に一体感がある。選手たちと一緒に戦っていて楽しい」。八戸学院光星の仲井監督はチームをそう評価する。けん引するのは、エースで4番の北口晃大と捕手の中村大悟。ともに3年、大阪府出身の2人。これまで例のない「ダブルキャプテン」として、指揮官が掲げる一人の気持ちがかかり、思いやりのあるチームづくりを目指している。



プレーでチームをけん引する北口（写真左）と、日々の練習でチームをまとめる中村



2人の主将で一体感

ことが敵しくなった。「中村がまらなかった」と仲井監督。そ
投げられなくなり、1カ月からここで投打ともに大黒柱として躍
いキャプテンを誰にしようか決 動する北口に白羽の矢が立つ

た。ベンチに入らない中村は普段の練習での声出しなどを担い、

八学光星の昨秋の公式戦投手成績

	試合数	登板数	投球回数	被安打	奪三振	与四死球	自責点	防御率
北口	9	62	46	51	9	5	0.73	
秋元	3	6	3	3	2	1	1.50	
及川	2	5	7	3	4	3	5.40	
大西	1	2	2	0	1	0	0.00	

試合では北口がチームを引っ張っている。仲井監督が「人間的にも素晴らしい、非の打ちどころがない選手」と絶賛する北口は、常にマウンド上から仲間を鼓舞。「エースで4番でキャプテンの重圧はない」と言い切り、「レギュラーとして活躍した」昨夏の経験がある分、仲間への声かけを意識している。信頼する仲間が守ってくれるからこ

控え投手 北口支えられるか

八学光星が勝ち上がるには、北口に次ぐ投手の出来が鍵を握る。投手陣は今大会に向け補食を取りながら体増に励み、投球練習を重ねて球速や質に磨きをかけた。1年春からマウンドに立つ秋元と、昨秋の東北大会決勝で登板した大西の両右腕は持ち前の制球力で勝負する。及川と若崎は、ともに140キロ台の速球が武器の右の本格派。サブの投手陣が北口にかかる負担を軽減できれば、チームの勝機が広がる。

（棟方好華）

そ、自信を持って投げられる」と語る。選手たちは今年のチームについて「上下関係がない」と口をそろえる。捕手鈴木（2年）は「雰囲気の良いは、頼りがいがある大悟さん（中村）と、この人について行ったら大丈夫だ」と思える北口さんがいるからこそ」と話す。

北口と中村は中学時代にそれぞれ所属していたチームが同じ地域で、対戦するなど面識があった。ともに八学光星に進み、主将となった2人。北口は「一人柄が良く信頼している」、中村も「北口がプレーにも集中できるように支えたい」と互いの強い絆でチームを引っ張る覚悟だ。